

## Ⅱ. 特別講演

### クリニカルパス電子化の実際 ～利便性と落とし穴～

黒部市民病院  
リハビリテーション科関節スポーツ外科

今田 光一

電子カルテの普及に伴い、クリニカルパスも電子化してシステムに組み込む試みが近年報告されるようになった。電子化で、一括オーダーによる標準化や安全化、バリエーション分析といったことがより効率的に行える利点がある一方、紙パスでは容認されていた業務パターンやパス形式・作成方法の寛容性は制限される。また電子ゆえの視認性や展開速度の問題や表記法の制限、法的な制限など電子カルテ導入前に知っておくべき事項も多い。

より効率的にまた有効なパス医療が行えるツールとして電子カルテシステムを構築して行くためには、ユーザーである医療者側が積極的に開発に関わる必要がある。現状ではパス業務（標準化検討からパス大会、パスの改善まで）のすべてを電子システムでは行えない。パスを医療ケアのPDCAサイクルの基軸として使用するためには、電子化されていないからといってバリエーション分析や改善など人の手で行う努力を怠ってはならない。パスの電子化とは、単なるパス表型のセットオーダーでないことを熟知しておく必要がある。

## 第5回新潟クリニカルパスフォーラム

日時 平成19年3月17日(土)  
午後2時15分～  
会場 ホテル新潟 3階 「飛翔の間」

### I. 一般演題

#### 1 急性期病院における

##### 大腿骨頸部骨折地域連携パスへの取り組み

塩崎 浩之(整形外科医師)  
廣瀬 恵(看護師・パス委員)  
巳亦 圭子(看護師長)  
今井 克敏(理学療法士)  
神田 義則(MSW)  
木津 顕(パス事務局)  
済生会新潟第二病院  
大腿骨頸部骨折  
地域連携パス作成チーム

当院は、前方連携の強化のために平成12年にオープンシステムを稼動し、後方連携の強化のために平成14年から病院連携会議を定期的開催するなど、地域ネットワークの構築に取り組んできた。また、平成14年から院内でクリニカルパスを運用している。

これらの活動をもとにして、機能分化した地域の医療資源を有効活用し地域完結型の医療・福祉を提供するために、大腿骨頸部骨折地域連携パス(以下、連携パス)に早くから取り組んできた。平成17年9月連携パス作成チームを発足、みどり病院スタッフとともに連携パスを作成、平成18年4月みどり病院と連携パス運用開始、その後猫山宮尾病院、岩室温泉病院とも連携パスの運用を行っている。独自に作成した「経過報告書兼依頼書」により、患者情報の共有化を円滑にするとともに、連携病院退院時の患者情報が当院にフィードバックされるように工夫した。

患者入院から連携病院への転院および退院にいたるまでの連携パス運用の実際の手順について

て報告した。また、平成18年4月から19年2月までの運用実績について報告した。

この間の大腿骨頸部骨折患者は59例（平均年齢80.9歳）であり、25例に連携パスが適用され、術後平均17.8日で転院した。平均在院日数は、連携パス導入前の平成17年1月から12月までが35.1日であったのに対し、連携パス適用25例は21.8日に、連携パス非適用34例も28.8日に短縮した。

連携パス導入後も、3病院と地域連携パス担当者会議、患者・家族への満足度調査、スタッフへのアンケート調査を実施しており、連携パスの改訂、質の向上に継続的に取り組んでいる。

## 2 長岡地区における

### 大腿骨頸部骨折地域連携パスへの取り組み

川嶋 禎之<sup>1)</sup>・長谷川淳一<sup>2)</sup>  
河路 洋一<sup>3)</sup>・長部 敬一<sup>4)</sup>  
山田 智晃<sup>5)</sup>・高橋 利明<sup>6)</sup>  
田中 稲実<sup>7)</sup>

地域連携診療計画研究会  
(整形外科)  
長岡赤十字病院<sup>1)</sup>  
長岡中央総合病院<sup>2)</sup>  
立川総合病院<sup>3)</sup>  
長岡西病院<sup>4)</sup>  
悠遊健康村病院<sup>5)</sup>  
吉田外科病院<sup>6)</sup>  
岩室温泉病院<sup>7)</sup>

平成18年度診療報酬改定の目玉として、地域連携診療計画管理料が新設されました。これを受けて、長岡地域では、整形外科医の常勤するすべての病院（急性期3病院、回復期4病院）が集まり地域連携診療研究会を立ち上げました。ちなみに長岡市の人口は約28万人であり、頸部骨折手術数は年間約300件です。研究会はこれまで4回開催され、ネットワーク作りから始まり、パスの基本的骨格・適応基準・治療方針・達成目標について討論を基に、患者用パス、医療者用パスの作成をしてきました。平成18年8月から運用を始め、これまで6ヶ月間の連携パスの使用実績

は、急性期病院頸部骨折入院患者数159に対し、パスを適用して退院したものの15とまだ少数でした。会の発足から1年も経っていないシステムですが、今後もデータの集積、分析を基に、進化し続けることでよりよい医療を提供するためのtoolにしていけたらと考えています。

## 3 回復期病院における

### 大腿骨頸部骨折地域連携パスへの取り組み

竹前 貴志

総合リハビリテーションセンター  
みどり病院

## 4 長岡市薬剤師会における

### 吸入指導システムの試み

#### 一中広域病院との地域連携と

#### 今後の課題について

室橋 正朋<sup>1)-3)</sup>・藤木 学<sup>1)</sup>・川又 隆<sup>2)</sup>  
大久保耕嗣<sup>1)2)</sup>・木口 俊郎<sup>4)</sup>・佐藤 和弘<sup>5)</sup>  
(株)えちごメディカル西長岡  
調剤薬局<sup>1)</sup>  
えちごメディカル古正寺薬局<sup>2)</sup>  
長岡市薬剤師会<sup>3)</sup>  
立川総合病院 内科<sup>4)</sup>  
長岡赤十字病院 内科<sup>5)</sup>

【はじめに】長岡市薬剤師会は、平成17年5月から市中広域病院と共に、吸入指導依頼書を介した地域連携のシステムを面分業で開始した。この形態は国内でも初めての試みである。開始以前に、2病院の呼吸器内科専門医と市薬理事の間で数回の打ち合わせを行ったのち、会員薬剤師に向け講習会も開催した。現在は大きなトラブルもなく稼働している。そこで我々は、今後の業務を更に充実させるため、西長岡調剤薬局で依頼を受け指導を行った全件について内容を検討した。

【方法】平成17年5月より平成18年6月15日まで、当薬局で吸入指導を行った100件について集計した。患者の吸入手技について、操作方法、吸入速度、息こらえ、うがいに分類し、個々に0